



ヴァンフォーレ甲府

## ごちゃまぜサッカー遊び 1/2

「ワンツースパスが出来て嬉しかった」これはある参加者の感想です。1人じゃ出来ないことも仲間がいればできる。今回の活動では、これまで行ってきた活動を協働者と振り返り、課題として挙げた障がいに対する「括り」に対して、「知る」ことから始まるという共通意識のもと、山梨県サッカー協会を中心に様々な方々と協働し、サッカーの特性を活かし、仲間と共にボールを蹴ることで、心を通わせ多種多様な人の考え方や個性を受け入れることの大切さを伝える場として実施しました。



活動場所 JITリサイクルインクスタジアム



協働者

企業、住民、学校、行政、  
山梨県サッカー協会

協働者名

(一社)山梨県サッカー協会、  
山梨ブラインドサッカークラブ、ヴァルカン甲府、  
(公財)山梨県スポーツ協会、(公財)住吉偕成会、  
小澤こころのクリニック、武田食品(株)、塚原眼科医院、  
山梨県



協働者の声

小澤こころのクリニック 作業療法士/柿崎 崇 氏



素晴らしい環境の中、サッカーの競技性のみではない、たくさんの可能性を感じられる活動となりました。今回の活動を通して、他者への優しさ・配慮が生まれた瞬間に立ち会う事が出来ました。普段関わる事のない方々との活動の共有は、参加者の今後の人生を豊かにするものであると感じています。



活動詳細情報

1

[公式サイト](#)

2

[公式Youtube](#)

カテゴリ(SDGs)/取り組みテーマ





ヴァンフォーレ甲府

ごちゃまぜサッカー遊び 2/2

## Story

自他共栄(嘉納治五郎)

スポーツを社会課題解決に活用できる。

そんな思いを持った人の繋がりで、この企画は出来ました。

ブラインドサッカークラブ代表、ソーシャルフットボールクラブスタッフ、精神科スタッフ、支援学校の教員。その対話の中で、出てきたのが「障がい」という言葉があることで「括られる」「ラベリング」されるということ。そして、「日陰を歩く」という意識を持ったご家族がいるという現実。

クラブでは、これまでも「ボールは誰にでも平等に転がる」を合言葉に様々な特徴を持った仲間と一緒に



に活動してきました。一緒にボールを蹴れば蹴るほど感じる「何の違いもない」と、「それぞれがそれぞれに違いがある」ということ。

この2つのリアルを結びつけることで、課題を解決出来ると感じました。

キーワードは、「ごちゃまぜ」「知る」

従来の体験イベントのように障がいの種類によって括らず、全ての人を「ごちゃまぜる」ことで、先入観を持たず目の前の人と触れ合う中で、自分が感じたままが「その人」であるということ。

イベント当日、集まったのは支援者を含め6歳から75歳までの154名。

相手のことを知る情報は胸に張った手書きの名前だけ。真っ白な状況で、初めて会った人とボールを蹴り、話し、相手のことを知る。そうすると、自然と仲間が出来る。

イベントが終わり、参加者からは、「ボールを一生懸命に追いかける表情は子ども、病児、親、コーチまで含めて皆同じ」「誰がどんな障がいがあるか分からなかった」「初めて会った人と少し話ただけで



すぐにうちとけられた」というような声が聞かれました。

正直、開始前は「ごちゃまぜ」に怖さも感じていましたが、色々な人がいるのが社会そのものと捉え進みました。その不安とは裏腹に人の「優しさ」が満ち溢れた空間になりました。

これからも、1人でも多く「自分も周りのみんなと一緒に良くなれる」と考える人を増やしていきたいです。